



JAあそだより

平成25年 8月



下城滝(小国町)



2013
夏

VOL. 70

■今号20ページ主な内容

- 第12回通常総代会 開催
- 生産各部会の総会・査定会・出荷状況
- JA阿蘇青壮年部・女性部の多彩な活動報告
- TPP反対街宣活動など情報満載!!

JA 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111 / FAX 0967-23-1088

第12回通常総代会 全議案、議案どおり承認



関係者多数が出席した通常総代会

J A阿蘇は6月26日、第12回通常総代会を阿蘇市の阿蘇体育館で総代やJ A阿蘇役職員をはじめ、管内自治体首長ら多数の来賓を迎え開催しました。

開会挨拶で工藤保雄組合長は「昨年の豪雨による大災害の犠牲になられた皆様に、改めて弔意を表しますとともに一日も早い復旧復興に努めなければなりません。また昨年9月に発覚した不祥事の信頼回復のために役職員一同、誠心誠意取り組んでいるところであります。地域で選ばれる組織を



挨拶する工藤組合長(写真上)と



中矢議長

目指し、積極的な事業活動を図っていきます」と述べました。

来賓祝辞、出席人員報告後、議長に中矢美記男氏(蘇陽町)を選任し、議事に移りました。議事では「第1号議案」平成24年度事業報告及び余剰金処分案について、「報告事項」平成24年度貸借対照表、損益計算書、注記表及び付属明細書について、「第2号議案」平成25年度事業計画及び関連事項について、「第3号議案」J A阿蘇活動総合3カ年計画について、「第4号議案」定款の変更について、「第5号議案」T P P断固反対に関する特別決議についてが執行部より提出され、質疑応答が行われた結果、全議案が議案どおり承認されました。

総代会開会に先立ち、平成24年度表彰式が行われました。

慶祝者25人に表彰状と記念品 「農林年金受給者連盟阿蘇支部」通常総会



農林年金受給者連盟阿蘇支部は6月24日、会員や役職員ら46人が参加し阿蘇市で第37回通常総会を開きました。総会に先立ち、2013年度慶祝者として米寿3人、喜寿22人に表彰状と記念品が贈られました。総会では議事として2012年度活動報告、2013年度活動計画など3議案が承認されました。総会終了後は熊本県農林年金相談員の米村身一氏より「農林年金制度をめぐる情勢について」と題して講演が行われ、「一時払い制度についての説明等も行われました。」

(写真上)表彰された慶祝者の方々



写真上から：会場の総代の方々、営農及び共済契約高齢者表彰、永年勤続者(職員)表彰

JA阿蘇青壮年部・女性部
熊本市での街宣活動に参加



6月15日、熊本市内で行われた全国一斉TPP反対街宣活動に、JA阿蘇青壮年部・女性部合わせて38人が参加。白川公園に集結した他の団体と上通より下通へ新市街を抜けて辛島公園までの約2kmを「TPP断固反対」「わが国の食と農を守れ」などのシュプレヒコールを上げました。当日はトラクターパレードも行われ、行き交う車輛や歩行者にアピールしました。解散式を行った辛島公園ではTPP断固反対の特別決議を採択し、参加者全員でTPP反対に向けた不退転の決意を改めて確認しました。



写真はいずれも街宣活動に参加したJA阿蘇の関係者

有意義であつた対話集会
JA阿蘇執行部と
青壮年部・女性部ら



7月10日、JA阿蘇はJA阿蘇青壮年部・女性部・常勤役員・参事・部室長との対話集会を開催しました。同集会は毎年行われている行事で、それぞれの組織から関係者ら22人が参加し、職員の異動や態度についての意見・要望や部員・盟友の減少対策などの意見が発表されました。それらの意見に



は工藤組合長や担当部室長が答える形で対話集会が進められ、大変有意義な会合となりました。(写真はいずれも活発な質疑応答が交わされた「対話集会」の様子)



阿蘇地域が世界農業遺産に認定されました！

写真＝米塚と雲海



世界農業遺産とは、伝統的な農業・農法と、それによって育まれた文化や土地景観、生物多様性を保全することを目的として、国連食糧農業機関（FAO）が認定するものです。

阿蘇地域は、世界農業遺産としては初めてとなる民間イニシアティブのもと、市町村や県が連携しながら世界農業遺産の認定を目指して取組みを進

めてきました。その結果、5月に石川県で開催された世界農業遺産国際会議で世界農業遺産に認定されました。

阿蘇の農業の一番の特徴は、草資源を使った多様な農業が展開されていることです。家畜の飼料はもちろんのこと、屋根材やバイオマス資源としても活用されています。阿蘇は火山性土壌のため生産性が良い土地ではありませんでしたが、我々の祖先が長年、牛の堆肥や野草堆肥を使うことで土壌改良し、地力を高めてきたのです。

阿蘇地域では、あか牛の放牧や野焼きなど多様な農業生産活動が行われており、それによって世界に類を見ない美しい草原が保持されています。広大な草原に希少な草原性動植物が生息していることや、阿蘇地域に伝統的な農耕文化が残されていることなどが国際的に高く評価されました。今回、阿蘇地域が認定されたことは、阿蘇地域の皆さんのみならず、県民の自信と誇りにつながるとともに、世界農業遺産を農業振興や観光振興へ活用することで、地域の活性化が期待されます。また、野焼きなどへの関心が高まり草原の維持再生が図られることも期待されます。

阿蘇の草原が次の千年も残っていくように、県としても多様な農業や生物多様性、伝統文化、阿蘇の雄大な景観などを県民の皆さんとともにしっかり守っていきます。

【問い合わせ先】 熊本県農林水産政策課（阿蘇地域農業世界遺産推進協議会事務局）
電話 096-333-2364

【ホームページ、フェイスブック】

[阿蘇 世界農業遺産](#)

[検索](#)

田園風景の中を静かに走り抜ける「電気軽トラック」

「エコな農業を目指していきたい」今村孝典さん(南阿蘇村)

阿蘇の山々は、野焼き直後の真っ黒な山肌から緑が眩しい姿へと移り変わり、新緑の時期を迎えており、豊富な水が流れ込む水田では水稻の苗がすくすくと育っている。そんな田園風景の中を静かに走り抜ける軽トラックが南阿蘇村にいる。「中学生の頃から、電気自動車に乗るのが夢だった」と語るのは、電気軽トラックの持ち主である今村孝典さん(50歳)。今村さんは、南阿蘇村でアスパラ35aを中心に畜産、稲作など経営をしている専業農家。3月のJA自動車展示会で、三菱自動車より発売されていた「MINI CAB-MiEV TRUCK」を見て、ガソリン車とのコスト比較と購入補助金もあったことで購入を決断。実際に走行してみると、ガソリン車に負けない馬力にビックリ。満充電までの充電時間は、AC200Vで約4.5時間、AC100Vで約14時間程度。満充電での走行距離は約100km程度であるが「走行距離については、特に不便は感じてない」と今村さんは話す。現在は、道の駅や駐車場などにも充電場所があるのも助かっているようだった。農作業においては「四輪駆動でないので悪路走行時に不便を感じるが、その他では支障はない。エコな農業を目指していきたい」と話された。(取材＝後藤真智)



写真左＝今村孝典さんと愛車「電トラ」
写真上＝「電トラ」の充電ソケット部分

JA阿蘇青壮年部が環境美化活動で市道沿いを草刈り

7月15日、青壮年部盟友48人が環境美化活動を行い、阿蘇市宮地の市道沿い約1kmの草刈をしました。作業後、道沿いは見違えるほどきれいになり、犬飼忠綱部長は「今後も盟友と協力していろいろな形で地域貢献をしていきたい」と話していました。(写真右＝草刈りに集ったJA阿蘇青壮年部盟友の皆さん)



料理教室その1

「焼肉のたれ&パン作り」

女性部南阿蘇支部

+フレッシュミズ



参加者の皆さん

5月30日、JA阿蘇女性部南阿蘇支部とフレッシュミズは手作り焼肉のたれとパン作り教室を開きました。パンは熊本県産の小麦粉とイースト菌を混ぜて一次発酵させ、倍に膨らんだ生地を小分けにしてダッチオーブンに入れて焼いたり、竹の棒に直接巻いて炭火で焼き上げました。焼肉のたれは、玉ねぎ・にんじん・りんごをフードプロセッサーにかけ、煮詰めたものを醤油麹と混ぜて作りました。出来上がったたれは野菜と麺の粒々感があって味もしつかりしており、パンも意外とふくらもちもちで、両方とも美味しいと参加者からとても好評でした。



↑ 手作りたれの仕込み



ダッチオーブンで焼く



竹に巻きつけて焼く



焼きたてのパン



← 1次発酵中のパン

料理教室その2

「しょうゆ麺で

焼肉のたれ作り」



しょうゆ麺でたれ作りに挑戦中!

女性部南阿蘇支部フレッシュミズでは、活動の一環として「焼肉のたれ作り」を7月11日にしました。このたれ作りは、家の光2013年2月号掲載の「米麺としょうゆで作った「しょうゆ麺」がベースとなっており、地元で収穫された野菜を混ぜることで手作り感いっぱいのたれ作りとなりました。方法は、たれ作りを行う2週間前に米麺としょうゆを混合し、発酵させておくことが重要です。発酵させた「しょうゆ麺」を、たれ作り当日に準備していた粉砕した野菜と調味料を混ぜたものに加えて完成となります。



たれ作りに使われた
地元産の新鮮野菜

料理教室その3

「暑い夏を乗り越える料理」

「暑い夏を乗り越える料理」

女性部南阿蘇支部では7月19日、地元食材を生かした「夏の料理講習会」を南阿蘇村で開きました。この料理講習会は部員の交流の場を目的に、夏と冬の年2回開いています。今回は部員19人が参加、揚げ鶏甘酢風味など中華料理風の8品を作りました。食材には地元野菜が使われており、担当職員は「この講習会で腕に磨きをかけ、暑い夏を乗り越えてほしい」と語っていました。(次ページに写真掲載)



暑い夏を乗り越える料理講習会参加者の皆さんと出来上がった料理の数々
(本文は前ページを参照)

◆健康維持と近い将来に備えて… 女性部健康教室始まる



J A阿蘇女性部南阿蘇支部では、例年開催されている健康教室を6月12日より始めました。この健康教室は暑い時期を乗り越えていける体力づくりと近い将来に備えたロコモ(寝たきり)対策として、10月まで行われます。

当日は、J A熊本厚生連健康管理部の高橋優保健師指導のもと、部員22人が音楽に合わせて健康体操などで汗を流しました。体操に入る前、宮崎ヒサ子支部長から「自分の体調に合わせて無理なく、楽しく汗を流してください」と挨拶があり、例年参加している部員は「正座が出来なかったのに、出来る



楽しく健康体操をする部員の皆さん

ようになった」と、体の動きが良くなったことを喜んでいました。担当の瀬井真美職員は「気軽に参加して頂き、楽しく健康な体づくりをしてほしい」と話しています。

◆地元産の花を使って フラワーアレンジメント教室

女性部南阿蘇支部は6月20日、南阿蘇村でフラワーアレンジメント教室を開催、部員ら35名が参加しました。

これは、地元で栽培されている花のことをもつと部員に知ってもらい、生活の中に花を取り入れてもらうことを目的として開催されました。

宮崎ヒサ子支部長は挨拶の中で「地元で栽培されている花を知って頂く

同時に、部員同士の交流の場になれば嬉しい」と述べました。当日は、社団法人日本フラワーデザイナー協会の飯田いずみ氏を講師として迎え、グラジオラスなど、J A阿蘇南部地区で栽培された4種類の花を組み合わせてアレンジメントを作成しました。また、グリーンにはアスパラガスの枝を使用。参加者からは「地域に様々な花があることが分かって良かった」「お手本のように出来なかったが、かわいく出来た」などの感想が聞かれました。



フラワーアレンジメントに参加した女性部の皆さん

◆「ヒゴムラサキ」

今期も安全・安心な栽培へ万全

JA阿蘇南部なす部会では、昨年に引き続き今年も6月、天敵昆虫資材を導入し、消費者へ安全・安心な「ヒゴムラサキ」栽培へ万全の取り組みをしました。この天敵導入の目的は、気温上昇によるスリップス等の発生対策で、2年前に試験的にスワルスキーカブリダニを導入。試験的に使用した結果、農薬散布の労力軽減などに繋がったこともあり、昨年は導入面積を全体の半分程度まで増やし、本年は更なる面積拡大を図りました。

使用方法は定植後30日以降に散布するだけで、作業時間も短く農家の作業負担は少なくて済みます。

指導担当の後藤真智職員は「天敵導入後に使用できる農薬が限られており、今まで以上に農薬散布時に注意が必要。そのため、全戸での導入は難しい



かもしれないが、出来るだけ導入面積を増やしていきたい」と、意気込みを話していました。

(写真上：天敵資材を散布する生産者)

◆南部なす部会出荷査定会

目標販売高5575万円
新たな販売方法への取組も



挨拶する三森部会長

JA阿蘇南部なす部会は、6月19日、2013年産出荷査定会を高森中央支所で開き、生産者ら関係者約40名参加しました。本年産の出荷は、5月下旬より始まりましたが、本格的な出荷を前に各等級や出荷要領の確認を行いました。

査定会を前に三森伸治部会長が「今年も安全安心なナスを消費者に届け

ていきたい。また新たな販売方法にも挑戦していきたいので、部会一丸となって取り組んでいきましょう」と力強く挨拶しました。

販売担当の田上伊織職員は「行政と生産者の販売促進活動もあつて、知名度は上がっており、消費地からの問い合わせも年々増えている」と話しています。査定会では市場関係者とJA販売担当者が一緒になって等級の確認を行い、「売れる商品作りを意識して毎日出荷してもらいたい」と語っていました。

今年12月まで出荷計画を立てており、3万3430ケース（1ケース7kg、5575万円の売り上げを予定しています。



JA職員による等級の確認

◆市場担当者や仲卸にPR活動

地元市場で試食宣伝会

6月29日、特産「ヒゴムラサキ」の試食宣伝会が熊本大同青果（熊本市西区田崎町）で行われました。南部なす部会の地元市場での市場試食宣伝会は初の試みで、出荷数量が増加する7月上旬以降の販売に向けての仲卸業者へのPR活動を目的としています。

当日は三森伸治部会長ら生産者4名が参加し、朝鏡りに合わせて試食宣伝会を行い、様々なレシピ紹介も行いました。試食した仲卸業者からは「生で食べても美味しいが、いろいろな調理方法があり、さらに美味しく食べることができると好評でした。

三森部会長は「先ずは買い手に味を知ってもらうことが大事。そして、小売店などへ繋げてもらいたい」と試食宣伝会での手応えを感じていました。

販売担当の田上伊織職員は「知名度は上がっているが、実際に味を知っている仲卸業者が少ないので、試食宣伝会を通して美味しさを知ってもらいたい」と、今後の販売に期待をしていました。

同部会では、7月6日に鶴屋百貨店（熊本市中央区で、同13日にも大分県で試食宣伝会を行いました。

(次ページに試食宣伝会写真を掲載)



市場関係者にも、消費者にも大好評「ヒゴムラサキ」試食宣伝会

写真左＝鶴屋百貨店 写真右＝熊本大同青果



◆特産「ヒゴムラサキ」

7月上旬より出荷数量増

高森特産「ヒゴムラサキ」の出荷数量が、6月下旬頃の段階では日量200ケース（1ケース7kg）で、生産者の

約8割が出荷、さらに7月上旬からはさらに増加傾向にあります。



今年産については昨年と定植時期は変わらなかったものの、朝晩の冷え込みが昨年以上に続いたことで、生育はやや遅れ気味でしたが、4月末からの好天の影響、生産者による温度管理によって味・品質ともに例年と比較しても良好で、2し（果長28cm以上）中心の出荷となっており、主に県内へ出荷が行われています。

今後は12月末まで主力の県内を含め、東京・名古屋・福岡などの大都市圏への出荷が予定されています。



収穫作業をする三森伸治部会長

高森特産「ヒゴムラサキ」、KABの「Do You のうぎょう？」の取材を受ける

6月4日、熊本朝日放送（KAB）のテレビ番組「Do You のうぎょう？」の取材があり、高森特産の「ヒゴムラサキ」の撮影が行われました。当日は、JA阿蘇南部なす部会の三森伸治部会長のハウスで、栽培管理や収穫作業風景の撮影があり、三森部会長は良質な「ヒゴムラサキ」を作るための栽培管理等を説明し、特産「ヒゴムラサキ」をアピールしました。

「ヒゴムラサキ」は、果肉がとてもしずくめで、果物のようにそのまま食べることが出来、調理しやすいナスとして年々、市場や消費地の評価が高く、現在、高森地区では栽培面積2.8ha、生産者16人で栽培し、出荷は12月まで県内を中心に福岡・名古屋・東京へ予定しています。当日収録された番組は、6月21日午後7時54分より放送されました。

（写真＝いずれもハウス内での撮影風景）



◆中部トマト部会

「11月下旬まで頑張ろう！」
12億5000万円の販売見込む



JA阿蘇中部トマト部会は6月5日、JA阿蘇一の宮中央支所に生産者やJA・市場関係者ら約170人が出席し、2013年産トマト出荷査定会を開きました。

山本清五部会長が「目標に向かって11月下旬まで頑張らしよう」と挨拶後、生育状況や各市場よりの情勢報告が行われ、最後に出荷計画・利用料金・持ち込み要領について、販売担当者より説明がありました。

今年度は作付面積35・75ha（前年比101%）、生産者143人（同98%）、出荷計画89万ケース（4kgケース）で12億5000万円の販売金額を見込んでいます。

販売担当の大申大樹職員はこの特長ある阿蘇を、もともととアピールし、「二層の販売促進に繋いでいきたい」と語っていました。

（写真上）挨拶をする山本清五部会長

◆中部キュウリ部会

夏秋キュウリ
11月下旬頃まで出荷

阿蘇市管内では6月7日から夏秋キュウリの出荷が始まっています。

初出荷を迎え中部キュウリ部会長の市原伸博さんは「4月下旬に定植したキュウリが初出荷を迎えた。初収



穫のこの思いは毎年変わらず、とてもうれしく、また、ほっとしている。今後、病害などに全神経を集中し、栽培には「げみたい」と、笑顔で感想を語っていました。

指導員の井手友和職員は、生育良好のキュウリを見て「長期間の作型だが、肥培管理を十分に指導し、10a当たりの収量を10t以上生産したい」と語っていました。

阿蘇市管内地域は、寒暖の差があるため、肥培管理が難しい半面、食味、食感に申し分ありません。部会では主にブルームレスキュウリとブルームキュウリの2種類の栽培に取り組んでおり、ブルームレスキュウリは地元市場を重点に出荷し、ブルームキュウリは福岡の生協へ出荷をしています。

出荷期間は6月上旬から11月下旬の半年間の予定です。

（写真左）「つと」章に収穫をする生産者

「甘いホームランメロン、いかがですか〜!!」 熊本県庁で白水メロンの試食宣伝



JA阿蘇白水メロン部会は6月3日、熊本県庁で「阿蘇メロンフェア」と題しホームランメロンの試食宣伝会をしました。当日は生産者ら6人が参加。県庁職員や来庁者に「甘い、阿蘇メロンはいかがですか〜」と呼びかけました。同部会では、地元の消費者にも阿蘇メロンを知ってほしいと、毎年、同時期に試食宣伝をしています。

当日は120玉のホームランメロンを用意しましたが、あっという間に完売。また、数量限定で「場外ホームランメロン」も販売したところ、こちらも大好評で完売となりました。試食した人からは「甘くて美味しい」という感想が数多く寄せられました。

◆夏秋キュウリ査定会

中部キュウリ部会
販売計画は4200万円



挨拶をする市原伸博部会長

J A阿蘇中部キュウリ部会は6月28日、阿蘇市内で生産者やJ A、市場関係者ら約30人が参加し、2013年度産キュウリ出荷査定会を開きました。

市原伸博部会長は「昨年の豪雨災害で減収となった分まで、今年は取り戻そう。査定会の説明内容を生産者各位がよく遵守し、出荷して頂きたい」と挨拶。次に各市場より情勢報告があり、出荷計画、利用料金、持ち込み要領について、販売担当の甲斐裕久職員より説明が行われました。

13年度出荷計画は、面積1万6904㎡(前年比92%)、出荷数量3万200

0ケース(1ケース5kg、前年比121%)、販売計画4200万円(前年比132%)を計画しています。

主な出荷先は九州内各市場、また、地元消費拡大を計画し地元スーパー等に出荷予定です。

◆南部トマト部会

目標販売高7億円
産地情報の精度向上をめざす



J A阿蘇南部トマト部会は6月10日、生産者や市場・J A関係者ら約100人が出席し、2013年度南部トマト部会出荷査定会を南阿蘇村で開きました。査定会に先立ち、耕整行部会長が「生産者一人一人が心を込めて、丹精に作った阿蘇トマトをしっかり売り込んでいきたい」と挨拶。その後、工藤保雄組合長が「世界農業遺産として登

録されたことを生かして有利販売に努めていきたい」と挨拶しました。

販売担当の職員は「今年も美味しい阿蘇トマトを消費地に自信を持って届けられる」と力強く語っており、同部会では圃場ごとに土壌分析を行い、その結果に応じて必要な量だけを施肥することで、無駄なコストがかからないようにしています。

2013年度作付面積は、22.4ha(前年比101%)、栽培戸数72戸(同)となっており、11月まで出荷数量2800t、販売高7億円を計画しています。
(写真上＝挨拶をする耕整行部会長)

◆「阿蘇トマト」6月より選果開始
品質・味ともに良好!

南部野菜センターでは6月15日よりトマトの選果・出荷が始っており、その時点での日量は200〜300ケース(1ケース4kg)で、県内を中心に、その後は九州各県及び中国地方へ出荷が行われています。同センターは2005年に新設された施設で、カラーセンサー付き選果機を導入、高度な選果・規格の均一化による高品質な農産物の出荷で年々市場評価が高まっています。

果実の肥大、食味は例年以上の出来となっており、販売担当者は「今年も美

味しい阿蘇トマトを消費地に自信を持って届けられる」と力強く話していました。同地区では、昨年より品種を「りんか409」に変えており、今年度の販売に期待がかかっています。

(写真左＝いずれも選果作業の様子)



◆白水ミニトマト部会

目標販売高1億5500万円
品質・収量確保に基本技術徹底

6月21日、2013年度出荷査定会が南阿蘇村で開かれ、生産者ら50人が参加しました。挨拶で安達辰喜部会長は「今年も安全安心な阿蘇のミニトマトを消費者に届けるため、部会一丸となり取り組もう」と述べました。同部会は過去に県野菜振興協会の団体功労賞を受賞。長年、高品質の商品を出荷し市場より高い評価を得ています。販売基本方針として、①品質・収量確保に向けた基本技術徹底、②タイムリーな産地情報発信と安定供給体制構築、③「阿蘇ブランド」の発信と販促活動強化を掲げました。今年は11月までの出荷計画で、出荷数量100万パック、販売額1億5500万円を予定。本年度の作付概況は生産者20人、作付面積5.3ha（前年比96%）となっています。

◆南部花卉合同出荷会議

目標販売金額2億3500万円

6月21日、2013年度南部花卉合同出荷会議が山都町（旧蘇陽町）で開かれ、関係者約50人参加しました。同会議は3年前より産地と消費地の意見交

換強化を目的に、例年、出荷が本格的になる前に行われています。冒頭に佐藤勝敏部会長が「市場との意見交換をして、品質・販売力向上に力を入れたい」と挨拶。参加した市場関係者は「スムーズな販売を行うためにも、精度の高い情報提供を求めたい」と、産地の情報提供に期待していました。

同地区では12月下旬まで、トルコギキョウを中心に様々な花卉の出荷が行われます。13年度では、南部地区全体で出荷本数250万本、販売額2億3500万円を見込んでいます。



会議冒頭に挨拶する佐藤部会長



会場には生産者が栽培した花が生けられ、華やかなムードを演出

◆阿蘇中部いちご部会

「豪雨災害を乗り越えて…」



昨年の豪雨災害を乗り越えて、J A阿蘇中部いちご部会は7月2日、12年度産総会及び反省会を阿蘇市で開き、部会員やJ A関係者ら80人が出席しました。宮本陽一部会長は冒頭に、「昨年の豪雨災害から1年経ち、各関係機関やボランティアの協力により、復旧が進んできました。特にJ A八代イチゴ部会より支援して頂き、大変感謝しています。昨年12月、お礼を兼ね八代イチゴ部会へ伺いました。これを機に産地間の協力を続けたい」と述べました。

江藤秀見指導員は次年度部会の基本方針として、反当収量4t、基本栽培管理や検査基準の徹底による品質の確保、熊本経済連青果物コントロールセンターとの連携による販売戦略の構築な

どを確認しました。

尚、12年の表彰は次の方々です。

J A表彰 嶋野妙子、部会表彰「総販売高」 園田賢臣・大津裕樹・佐藤哲治、「反収金額」 甲斐桂史・井野耕児・橋本堅（敬称略）写真上 挨拶をする宮本陽一部会長

◆J A阿蘇ピーマン部会

「消費地との
緊密な連絡体制」を



ピーマン部会は7月5日、2013年度出荷査定会を山都町で開き、生産者ら70人が参加しました。査定会に先立ち、玉目隆利部会長が「今年は試験品種も作付けし、より高品質で高収量に繋がることに期待したい」と挨拶しました。同部会では2011年度より、

〔前ページより続く〕

施設栽培では「京まつり」、露地栽培では「サラ」に品種を集約し、収量や耐病性を更に高めたいと2013年産では試験品種の作付を実施中です。

今期は12月まで、県内を中心に九州各地へ6万3450ケース（1ケース4.5kg）を出荷予定です。（前ページ写真＝出荷規格を説明する担当職員）

◆中部ミニトマト部会

「新たな気持ちで生産に励もう」



J A阿蘇中部ミニトマト部会は7月5日、阿蘇町中央支所に生産者やJ A・市場など約40人が参加し、2013年産出荷査定会を開きました。

草尾和幸部会長は「昨年の豪雨災害から部会員の圃場もほぼ復旧し、今年は新たな気持ちで生産に励んで頂きたい。委託選果も7割に増え、より良い出荷に繋がっている」と挨拶。続いて生育状況や各市場の情勢報告が行われま

◆「阿蘇いちご」の有利販売に 中部・南部の出荷アイテム一元化



J A阿蘇南部いちご部会は7月9日、南阿蘇村で第22回南部いちご部会総会を生産者ら50人が出席し開き、2012年度事業報告など8議案を承認しました。島田部会長は冒頭挨拶で「販売形態が多様化し、今後は新たな販売方法が必要。消費地からの意見や要望をしっかりと聞き、選ばれる産地作りへの取組を継続しよう」と述べました。総会では、様々な部会事業や販売取組を行っていくことを確認。また、2013年より全ての出荷アイテムを中部・南部地区で共同販売することで、

した。今年度は作付面積218ha（前年比113%）、出荷3万6000ケースで、6000万円の販売金額を見込んでいます。（写真上＝挨拶をする草尾和幸部会長）

◆目標販売高1億9250万円

JA阿蘇「蘇陽野菜共販運営会」



「阿蘇いちご」の有利販売へ繋げることにも承認されました。2012年度成績優秀者は次の方々です。（敬称略）▽成績優秀者1位＝藤田精一、2位＝武田智秋、3位＝山辺達也（写真上＝挨拶をする島田部会長、写真下＝優秀者表彰）

蘇陽野菜共販運営会は7月24日、夏秋野菜業合同出荷査定会を生産者ら約80人が出席し蘇陽総合支所で行い、平成25年度基本方針や出荷規格について確認しました。査定会を前に、玉目隆利会長が「今年も安全安心な阿蘇産野菜を消費者に届けたい。そのために販売先との連携も強化していきたい」と力強く挨拶。今年は7品目合計で出荷数量590t、販売高1億9250万円を計画しています。

熊日新聞の「くまもとあぐりん」 藤原孝誠さんのアスパラガス取材

JAグループ熊本「くまもとあぐりん」の取材が7月2日、南阿蘇村の藤原孝誠さんのハウスと久木野小で行われました。藤原さんは、アスパラガス36aと水稲2haの経営を行っています。当日は、久木野小5年生が藤原さんからアスパラガスについての授業を受けました。この「くまもとあぐりん」は、8月27日の熊日新聞に掲載されます。



長陽チームが優勝

県大会への切符を手に入れる

親善野球大会

熊本県J A親善野球大会予選を兼ねた第11回J A阿蘇親善野球大会が6月22日、阿蘇市の農業公園あびかで開催されました。熱戦の結果、長陽チームが優勝、小国郷チームが準優勝となりました。開会式では工藤保雄組合長の挨拶後、小国郷チームの高村涼選手が力強く選手宣誓をしました。優勝した長陽チームは1、2回戦を大量リードで勝ち進み、決勝戦では今年2連覇



写真左上=優勝の長陽チーム、左下=準優勝の小国郷チーム
写真右上=工藤組合長の始球式、右下=高村選手の選手宣誓



を狙う小国郷チームと対戦。初回に4点を先取し中盤以降に2点を奪われるものの、さらに3点を追加し7対2とリード、県大会への切符を手にした。

優勝は阿蘇町の「べっぴんちゃん」チーム

親善ソフトバレー大会

女子職員の親睦と融和を目的に、県大会予選を兼ねた第9回J A阿蘇ソフトバレー大会が7月6日、阿蘇市体育館で行われ、15チーム93人が熱戦を繰り広げました。開会式で工藤組合長は「業務終了後の練習で大変だったと思いますが、最後まで楽しくプレーして下さい」と挨拶。前年度優勝チームの古澤綾乃職員が選手宣誓。試合は素晴らしいアタックがあったり、時には笑いがあつたりと選手の皆さんは楽しい時間を過ごしました。試合の結果は、優勝「べっぴんちゃん」(阿蘇町)、準優勝「アンパンマン」(小国郷)、3位「一の宮B」(二の宮)、4位「821」(南部地区混合)。上位4チーム(写真)は9月7日、ウイングまつばせの「第38回熊本県親善ソフトバレーボール大会」に出場します。



↑ 古澤職員の選手宣誓



↑ 優勝「べっぴんちゃん」

← 準優勝「アンパンマン」



↑ 3位「一の宮B」

← 4位「821」(南部地区混合)



JA阿蘇職員募集要領

阿蘇農業協同組合の職員採用を下記内容により実施いたします。

◆平成26年度 高卒(新規学校卒業)

- 採用職種及び採用予定者数 一般事務職……………8名程度
農業関係技術職……………2名程度
- 受験資格 平成26年3月(来春)までに卒業見込みの者。
- 受験手続 (1)提出書類 統一応募書類(全国高等学校統一用紙 その1、その2)
(2)募集締切日…平成25年9月7日(土)必着
(3)応募書類提出及び問い合わせ先 ※本誌ページ下段に表記
(4)応募方法
ア.原則として郵送に限る。但し、持参や詳細事項の面談の場合は、事前に電話予約が必要。
尚、受付終了後「受験票」を郵送します。
イ.学校を通じ申し込むものとする。
- 試験の日時・場所及び内容
(1)第1次試験 日 時:平成25年9月19日(木)午前9時30分から午後3時20分
(受付:午前8時30分～9時10分)
場 所:JA阿蘇 一の宮中央支所
内 容:国語、数学、社会、適正検査及び作文
(2)第2次試験 日時、場所:第1次試験合格者のみに後日通知します。 内容:面接試験
- その他 (1)受験票、筆記用具(鉛筆等)を持参して下さい。
(2)昼食は準備いたします。
(3)受験のための費用は支給しません。

◆平成26年度 高卒(既卒)・専門学校・短大卒・大卒

- 採用職種及び採用予定者数 一般事務職……………12名程度
農業関係技術職……………3名程度
- 受験資格 昭和53年4月2日以降出生の者で平成26年3月(来春)までに卒業見込みの者。
但し、平成26年3月新規学校卒業見込み者(高校在学中)については別途求人票による。
- 受験手続 (1)提出書類 ア.履歴書(JIS規格)……………1通(写真付)
イ.写真(3×4cm)……………1枚(履歴書に貼付した写真と同じ
ものとし、裏面に学校名・住所・氏名を記入)
ウ.学校成績証明書
エ.卒業証明書又は卒業見込証明書
(2)募集締切日……………平成25年9月7日(土)必着
(3)応募書類提出及び問い合わせ先 ※本誌ページ下段に表記
(4)応募方法 原則として郵送に限る。但し、持参や詳細事項の面談の場合は、
事前に電話予約が必要。
尚、受付終了後「受験票」を郵送します。
- 試験の日時・場所及び内容
(1)第1次試験 日 時:平成25年9月19日(木)午前9時30分から午後3時20分
(受付:午前8時30分～9時10分)
場 所:JA阿蘇 一の宮中央支所
内 容:高校(既卒)……………国語、数学、社会、適正検査及び作文
短大・大学……………一般常識Ⅰ(法律・経済)、一般常識Ⅱ(国語・数学)、
一般常識Ⅲ(時事問題)、適性検査及び小論文
(2)第2次試験 日時、場所:第1次試験合格者のみに後日通知します。内容:面接試験
- その他 (1)受験票、筆記用具(鉛筆等)を持参して下さい。
(2)昼食は準備いたします。
(3)受験のための費用は支給しません。

応募書類提出及び問い合わせ先

〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387番地5

阿蘇農業協同組合総務部総務人事課

(電話)0967-22-6111 担当:河津・阪本

平成23年産米最終価格について

23年産米の精算が終了し、最終精算金を平成25年7月中旬に入金いたしました。
今後もJAへの全量出荷にご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

各銘柄ごとの最終価格表

品 種	特別栽培米				一般米				特別米と一般米の 価格差
	仮渡金	追加金	最終精算	最終金額	仮渡金	追加金	最終精算	最終金額	
コシヒカリ ミルクQueen	13,020	1,020	1,380	15,420	12,520	1,020	1,380	14,920	500
ヒノヒカリ 森のくまさん	12,000	1,020	1,320	14,340	11,700	1,020	1,320	14,040	300
あさげしき	11,700	1,020	1,302	14,022	11,400	1,020	1,302	13,722	300
ひとめぼれ	11,700	1,020	1,200	13,920	11,400	1,020	1,200	13,620	300
いただき	11,400	1,020	1,296	13,716	11,100	1,020	1,296	13,416	300
くまさんの力	※ 今回の入金単価です。				11,100	1,020	1,200	13,320	
その他					10,700	1,020	1,080	12,800	

※ 今回の入金単価です。

※ 平成23年産米の米価変動交付金につきましては、出回りから3月までの相対取引価格(全国平均)から直近の流通経費等を差し引いて算出された当年産の販売価格が、標準的な販売価格を下回らなかったため、米価変動交付金は、交付されません。

【当年産の販売価格】	>	【標準的な販売価格】
12,624円/60kg	>	11,978円/60kg

理事会・監事会報告

■平成25年度第4回理事会

日時 平成25年6月21日午後1時30分／一の宮中央支所会議室

1. 開会

2. 組合長挨拶

3. 協議事項

JA熊本経済連青果物コントロールセンターについて

5月末実績について

監事監査報告（平成24年度決算期末監査）

1) 第12回通常総代会の開催について

2) 独立監査人の監査報告書について

3) 平成24年度決算監査概要書内部統制等に
関する改善指示書について

4) 平成25年度余剰金運用(案)について

5) 役員賠償責任保険継続加入と保険料徴収について(案)

6) 貸出金(地公体報告)について

7) 平成25年度米出荷契約金について

報告事項

1) 平成25年度米麦等欄卸監査実施について

2) 理事会日程変更について

3) 不祥事再発防止策取組状況(5月分)報告書について

4) 「平成24年度全般統制評価」について

5) 債権処理について

4. 閉会

■平成25年度第5回理事会

日時 平成25年7月8日午後1時30分／一の宮中央支所会議室

1. 開会

2. 組合長挨拶

3. 協議事項

1) 業務報告書の行政庁への提出について

2) ディスクロージャー誌(事業のご案内)2013について

3) ミニディスクロージャー誌(事業のご案内)2013について

4) 平成25年度役員報酬(案)について

5) 平成26年度JA阿蘇職員募集について

6) 公用印管理規程の改正(押切院廃止)について

7) 職員夏期賞与支給について

報告事項

1) 第12回総代会事前説明会開催状況報告について

2) 平成25年度全国監査機構監査計画概要について

3) 平成25年度ドライブウェイサービスコンテスト阿蘇大会について

4) 第50回農機自動車大展示会について

5) 平成23年度米最終精算について

4. 閉会

組合員資格確認について

当JAに届け出て頂いている内容(氏名、住所、組合員たる資格の別等)に変更があった場合には、JA阿蘇本所総務部総務人事課(TEL0967-22-6111)迄、ご連絡下さい。

■平成25年度第6回理事会

日時 平成25年7月29日午後1時30分／一の宮中央支所会議室

1. 開会

2. 組合長挨拶

3. 協議事項

委員会報告（経済専門委員会）

6月末実績について

1) 平成24年度決算監事監査回答書(案)について

2) 小国斎場(仮称)建設委員の選出(案)について

3) 金融円滑化にかかる基本的方針の改正について

4) 貸出金について

5) 役員等定数検討について

報告事項

1) 経営状況に関する事項の「体制整備モニタリング」報告
並びに「経営管理資料」報告について

2) 不祥事未然防止の為の行動計画部署別進捗管理状況
(25年6月末現在)について

3) 平成25年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの
進捗状況(25年6月末)について

4) 不祥事再発防止策取組状況(6月分)報告書について

5) 水稲苗枯死に伴う補償について

4. 閉会

●平成24年度第3回監事会

日時 平成25年7月8日／一の宮支所小会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

平成25年度役員報酬(監事)案について

4. 閉会

●平成24年度第4回監事会

日時 平成25年7月24日午後1時30分／本所2階第1会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

1) 平成25年度米麦等欄卸監事監査実施について

2) 内部統制等にかかる指導要領・JAバンク基本方針に基づく
「体制整備モニタリング報告」について

3) その他

報告事項

①常勤監事業務報告について(5月、6月)

常勤監事日常監査報告について(5月、6月)

②常勤会議報告について(第5日・6日・7日・8日)

③JA常勤監事監査研究会視察研修報告書

④行事予定について

4. 閉会

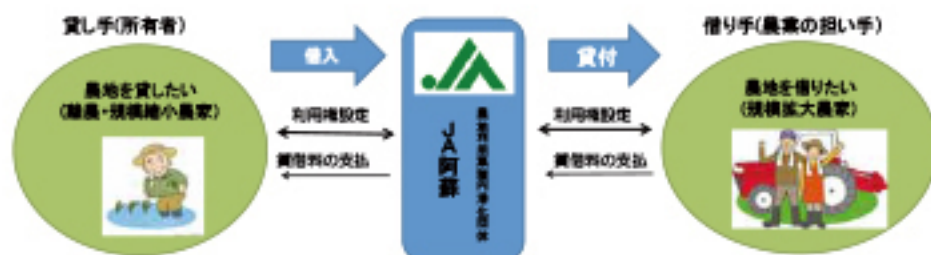
JAあそでは、農地の有効利用を図るため 農地の貸借(農地利用集積円滑化事業)に取り組んでいます

※農地利用集積円滑化事業とは

農地等の効率的な利用に向け、その集積を促進するため、平成21年12月に施行された改正農地法により創設(農業経営基盤強化促進法に措置)された事業のことです。農地利用集積円滑化事業は、①農地売買等事業、②農地所有者代理事業があります。

1. 農地売買等事業

JAが農地を借り受けて、その農地を貸し付けます。



【貸したい農家にとって】

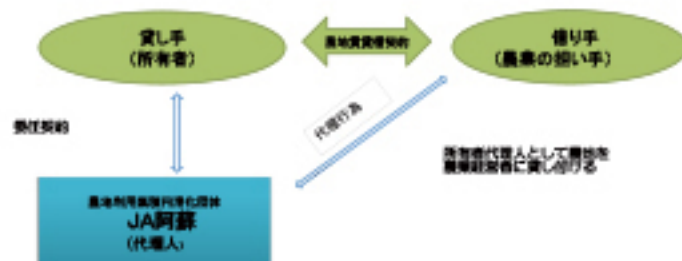
- ★JAが仲介するので、安心して貸し出すことが出来ます。
- ★賃借料の支払いは、JAが確実にに行います。
- ★期間満了になるとJAが責任をもって農地をお返しします。

【借りたい農家にとって】

- ★JAが仲介するので、農地を安心して借りることが出来ます。
- ★農地をまとめて借り入れることができ、団地化や効率的な農作業ができます。
- ★複数農家から借り入れる場合でもJAとの簡単な手続きで済みます。

2. 農地所有者代理事業

JAが農地の所有者を代理して貸付相手をさがします。(JAへの権利移転なし)



担い手への農地集積が円滑に進むように国が支援します。
(農地利用集積円滑化団体(JA)等を通ずることが条件です)

1. 農地集積協力金

人・農地プランに位置付けられた地域の中心となる経営体に農地が集積されることが確実に見込まれる場合や、中心となる経営体の農地を遠近化させようとする場合に、市町村等がそれに協力する者に対して農地集積協力金を支払います。

※ 土地利用型作物に加え、樹林地、野菜畑等(土地利用型農業以外)の円滑な経営継承を交付対象に追加します。

【貸し手】

農地集積協力金交付単価
0.5ha以下 30万円/戸
0.5～2ha以下 50万円/戸
2ha以上 70万円/戸

分岐集積解消協力金
5,000円/10a

2. 規模拡大交付金

農地の受け手が、新たに6年以上の利用権設定した2筆以上の農地のまとまりを構成した面積に応じて、2万円/10aを支払います。

【受け手】

交付単価 2万円/10a

詳しいお問い合わせ等につきましてはこちらまで

JA阿蘇 本所営農部(担当・鎌倉) 0967-22-6115
中部事業所(担当・荒木) 0967-32-1132

年金お受取はJA阿蘇で！

特典

会員様限定

定期貯金 100 万円まで
店頭金利に“0.5%”上乗せ！

☆☆お得なんです☆☆

スーパー定期貯金（預け入れ期間1年）

店頭金利+0.5% 限度額 100 万円

特典

プレゼント

ご成約いただいたお客様には「伊万里お茶碗セット」を差し上げます。



特典

年金友の会会員

毎年、グラウンドゴルフ・ゲートボール大会や旅行など楽しいイベントを企画しています。

※参加行事によって、実費負担があります。

特典

年金デー

年金デーには感謝の気持ちを込めて心のこもったプレゼント進呈！



※平成25年8月現在の特典であり、内容を変更する場合がございます。詳しくは窓口にご確認下さい。

大切な年金は近くて便利な JA 阿蘇へ

年金の複雑な手続きのお手伝いや年金に関するご相談も受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

